

会 議 録

公開・非公開
の別

公開

〈開催日〉平成28年3月17日(木)
〈時間〉17:00～18:00
〈場所〉岸和田市立公民館・中央地区公民館 講座室4

〈傍聴人数〉1人
〈傍聴室〉岸和田市立公民館・中央地区公民館 講座室4

〈名称〉平成27年度 第5回 岸和田市公共施設マネジメント検討委員会

〈出席委員〉

○は出席、■は欠席

足立委員	和田委員	伊坂委員	江口委員	大井委員	宮崎委員	七野委員
○	○	○	■	○	○	○

〈事務局〉山内総務部長

公共施設マネジメント課：梶野課長、花田参事、岸本主幹、上田主査、玉井担当

〈議事〉

1. 『岸和田市公共施設最適化計画』案について

〈会議の概要〉

委員長： それでは平成27年度第5回公共施設マネジメント検討委員会を始めさせていただきます。どうぞよろしくをお願いします。

- 委員の出席状況により委員会の成立と委員会を公開とすることを確認。
- 議事①「『岸和田市公共施設最適化計画』案について」

【計画案修正について】

「意見公募実施結果(抜粋)」「凡例の修正案」の資料に基づき、パブリックコメント反映後の計画案について事務局から説明。

委員長： 事務局から説明があった通り、パブリックコメントを受けた計画案については、全体を通して大枠の変更に至るところはないということなので、本計画案にて市へ答申したい。しかしながら、委員長として一言申し上げたいのは、本計画に記載した施設の延床面積の削減目標について、今期3%と次期30%の乖離が大きいという点について、パブリックコメントでも意見があり、本委員会においても議論を重ねた経緯があり、庁内での合意形成に苦労されたのはもちろん認識しているが、今後実現に向けてどう計画を推進していくのか、そのプロセスが重要であるということである。その点について、委員の皆さんからご意見はあるか。

委員： 削減目標は庁内合意のもと、実現可能な数字を挙げているという認識であり、それを公表するという事は、その実現について市民と約束するという事である。今後、本計画を実施していく上で、どのように進めていく想定なのか教えてほしい。また、その取組内容は引き続き市民に知らせてもらえるのか。

事務局： 事務局としても次年度の取組みは非常に大事だと考えており、定期的に市民に情報を公開して、計画の進捗管理を行う体制を整える必要があると考えている。具体的には、出前講座やワークショップ、本年度のような委員会体制を整える等、取組みが市民の目に触れる機会を増やしたいと考えている。

委員長：市の考え方としては、施設の統廃合の実現には相当時間がかかるため、最初の10年は助走期間として周知徹底をしながら現実的な3%削減に留めたが、次の10年は合意形成していく中で30%削減を必ず達成させるという意気込みを示しているものと受け止めている。しかし、委員会としては若干の心残りがあるので、今期の3%削減は確実に実現できるように進めることを市に求める一方で、現段階での庁内合意の結果であるということも尊重したいと思っている。今回、答申を出して終わりではなく、今後市民の理解を得ながら確実に進めていってほしい。ところで、本計画には削減目標達成に向け、以前、具体的なモデルケースとして、サン・アビリティーズの施設に他の施設を集約する話があったが、その後、庁内で具体的な進捗はあったか。

事務局：サン・アビリティーズは新福祉センターに機能を移転し、移転後の施設に近隣の女性センターと大宮青少年会館を複合化し、施設を整備する計画を検討しているところであり、庁内では関係各課とともに運営体制や運営時間についてなど、施設を集約する場合の様々な課題の解決に向け、検討を進めている。

委員長：施設利用者や庁内の合意形成を慎重に進める必要がある事例であると思うが、一つ一つ課題を解決し、削減目標の実行性担保のためのパイロットプランとして、実現に向けて頑張ってもらいたい。今後の具体的なスケジュールはどうか。

事務局：具体的に決定している訳ではないが、新福祉センターの建設完了は平成29年4月から6月頃を予定しており、実際に移転するのはその後になると思う。

委員長：それでは、集約までにはまだ時間があるので、実現に向けて是非進めてほしい。その他、委員の皆さんからご意見はあるか。

委員：市民は次期削減率30%の中身を知りたいと思うので、具体的な動きがあるのであれば、出来る限り早めに情報を公開し、市民が議論に参加できるようにしてほしい。

委員長：それでは、本委員会としては施設の削減目標も含め、計画案は変更しないこととするが、当然ながら再配置の協議が庁内で進み、3%削減の目標より大きくなるのはなお結構なことなので、サン・アビリティーズ跡施設への複合化をモデルケースとして、再配置に着手してもらえばと思う。他に意見等はあるか。

全委員：(なし)

【Kメンバーとの取組経過と市民アンケート調査結果について】
「Kメンバーとの取組経過」「公共施設に関する市民アンケート調査の集計結果」の資料に基づき事務局から説明。

事務局：Kメンバーの制度は、平成26年、27年の2年にわたり本市で初めて導入したものであり、全国的にも事例が少ない取組みである。Kメンバー導入にあたっては、従来の市民モニター制度とパブリックコメントによる自由意見の聴取との棲み分けが必要であり、インターネットを使用した双方向の意見聴取の仕組みとして、上手く機能するか事務局としても当初から不安があった。しかし、Kメンバーとの一連のやり取りを通して、Kメンバーからは問題意識が高く考察力に長けた意見をいただくことができ、結果として事務局の不安を払しょくするに余りある成果があったと感じている。事務局としては、今回せっかく築き上げたこの仕組みを続け、次の段階で地域別圏域での再配置検討に移行していく中で、今回のメンバーの中からも継続して関わって頂ける方には、今度は地域の住民として事情を踏まえた検討に、あわよくば参加してもらえれば有難いと考えている。

また、市民アンケートの集計結果については、一部関連事項を最適化計画の中に引用しており、市内在住・在勤で無作為抽出2千人を対象に、公共施設に対して思うことや公民館、学校等について意見を聞いている。その中で、好きな公共施設としては、市民が利用しやすく馴染みのある開放的な施設である図書館、浪切ホールが上位に挙がっており、パブリックコメントでも図書館に対する意見が多かったことから、生活に身近な施設に関心の強さが

表れたものと推測される。公民館や学校については、今後の圏域ごとの検討の中で主要な施設になる可能性が高いことから、市民意識としての参考になると捉えており、今後の取組みに反映したいと考えている。

委員長： 今後まちづくりの将来像を踏まえた施設のあり方について、市民自らが自分の問題として考えてもらう仕組み作りが重要であり、Kメンバーに対しては継続的に意見を求めていけると良い。市民アンケートは2千人を対象としており、その意見は大変参考となるものである。市民アンケートからの意見を提示し、圏域内の市民が一緒に考える機会を設けながら、公共施設の最適化に取り組めると良い。委員の皆さんからご意見はあるか。

委員： 毎回、Kメンバーには非常に意識の高い市民が参加していると感じていたところで、市民意見を反映しながら計画を作り上げてきたところが、岸和田市の取組みの良いところであり、今後、他市のモデルとなるものと考えている。ただ、一つ言わせてもらうと、Kメンバーの構成について、年齢に偏りがあったことと女性がいなかったことが残念であり、今後は偏りなく参加してもらえるような工夫が必要である。今後も可能であれば、Kメンバーの取組みを継続して頂きたい。

事務局： 先日、Kメンバーの方と意見交換会を実施し、これまでの質問で市の意向がはっきり伝わっていたか、何か課題はあったかなど、対面で話し合う機会があった。事務局としては、公共施設マネジメントの内容について事前説明の上、Kメンバーから意見を聴取していたのだが、そもそもその前提に本市の総合計画や都市計画マスタープランなどによるまちづくり全体の観点からの議論が出来ておらず、若干未消化感があるというご意見があり、そこが事務局としての反省点である。ただ、Kメンバーからは、今回公共施設に関して勉強する良い機会であった、インターネットを利用するため、ある意味一方的に様々な意見を出せて良かった等の意見をいただいたので、今後もこの制度を有効に活用できるようにしていきたいと考えている。また、幅広い層から意識の高い市民を広く集める方法についても課題があると認識しており、偏りのないメンバー構成を目指したい。

委員： 本委員会で、公共施設マネジメントの計画取りまとめの難しさを改めて感じたところである。施設の削減目標については、種類別施設と圏域ごとの観点から議論を進めてきたが、やはりまちづくりの観点を議論が最初にあり、初めて効率的な施設の利用と再編が議論できるものと考えている。削減目標の数字だけが独り歩きして行くのではなく、市民との対話の中でその部分はきちんと議論して着実に進めてほしい。そして、やはり学校が公共施設の面積の多くを占めている現状から、一気に着手することは難しい施設であるが、地域のまちづくりの中で議論されることを引き続きお願いしたい。

委員： 個人的には委員在任中に出産を経験したが、出産を機にライフスタイルが変化し、公共施設を利用する機会が増え、公共施設は年代やライフスタイルによって利用する施設が異なるものであるということを実感した。市民アンケートでは、50代以上の方の関心が強いが、あらゆる年代の市民が地域に関心を持つことが大事であり、それが公共施設に関心を持つきっかけとなる。また、パブリックコメントでは図書館についての意見が多かったが、これは図書館が単に利益を求めるような施設ではなく、教育的・文化的向上を求める施設であり、市民の関心が高いことを示しているものと思われる。公共施設は維持するには多くの費用がかかり大変だが、市民との議論の中で解決する糸口も見つかるのではないかと思う。

委員： 市民アンケート結果のP.30の問18では、公共施設の維持管理に関心があるという回答者が予想より多かったのが印象的である。ライフサイクルによって公共施設を利用しない年代は存在するので、その年代にいかに関心を持ってPRし、うまく活用していただくかが重要である。

委員長： 今後、この計画を具体的に実行するには、庁内合意で理解を得ることが重要であると同時に、我々のような外部の有識者が計画実施の進捗を管理していくということも重要である。次年度の検討実施体制について、事務局はどのように考えているか。

事務局： 次年度は、計画を着実に推進していく段階である。これまでも庁内で検討会議を設置し議論していたが、次年度以降も引き続き効果的に運営できる会議体の構築が必要である。ただ、

これまでの庁内検討会議は市全体を踏まえた計画の策定段階であったため、施設を所管する全部課長を構成員としていたが、今後は細部に係る議論となることが想定されているので、より深い議論ができる構成、体制を整える必要があると考えている。また、実施計画を進めるにあたっては、今までと同様、庁外からの客観的なチェックが必要と考えており、有識者や市民とともに、一定の時期ごとに進捗を確認しながら議論していかなくてはならないと考えている。そこで、事務局では本委員会の委員の皆さんにも可能であれば引き続き、ご指導を賜りたいと考えている。本市の取組みは他市からや議会からも注目されており、効果的に進捗状況を確認していけたらと思っている。

委員長： 事務局が今想定されているように、我々も今後の進捗状況の確認とアドバイスができるような機会をいただけるなら、本委員会では引き続き協力していきたいと考えている。

【答申案について】

委員長： 答申書には、公共施設の最適化に向けて市が取り組む上での留意事項を示すが、計画の実行には市民の理解が不可欠であり、利用満足度の向上を目指す中で市民とどう折り合いをつけるかが大事である。また、同時に岸和田らしい特色を活かした施設の整備を目指してほしいと願っており、それら取組みには市民参画が不可欠である。また一方で、本委員会で計画に盛り込むことが出来なかった積み残し分については、最後に提言の付帯意見として記載する。委員の皆さんからご意見はあるか。

全委員：（なし）

委員長： それでは、これで本計画案の最終取りまとめを行い、最終答申として提出したい。
この2年、委員の皆さんには活発な議論をいただき、今日ここに最適化計画案を提示できたわけであるが、作って終わりではなく、一歩ずつ実現に向けて進めてほしいと願っている。

委員： 本計画は、Kメンバーと本委員会での意見を織り交ぜ、作られたものである。委員会では毎回の議論に厚みがあり、私自身勉強させて頂いた。計画を作って終わりではなく、今後の継続した取組みに期待している。また、市民からの意見で、教育・文化・芸術分野の色がある図書館と浪切ホールに注目が集まっていることが認識できた。今後も引き続き岸和田らしいまちづくりと公共施設のあり方を追求してほしい。

委員： 本委員会は公共施設というものを見直す良い機会になった。委員会では市内在住という視点から意見を申し上げたが、専門である家政学の視点からも議論できたら良かったと思う。自分が子育てをしながら実感したように、街を歩くだけでも様々な発見があるものであり、施設のあり方を検討する際には、そのような市民が参加できる機会を作してほしいと思う。教育・文化・芸術施設を充実させることで生活を豊かにし、また、非常時の防災拠点としての機能強化も重要な観点である。

委員： 市民委員として本委員会に参加させてもらい、事務局や委員と意見交換する機会をいただき感謝している。計画では「最終的に施設の利用満足度を向上させていくこと」を目標としているので、市民として利用満足度の向上についてモニタリングをしてほしいと願っている。先ほど意見があったように、ライフスタイルの変化により公共施設を利用することになるのは実際によくあると思うので、それを利用者拡大のチャンスと捉えて考えてほしいと思う。いわゆる PPP は「公民連携」ではなく「官民連携」だと考えており、行政である官と民が連携して「公」の部分を担当するという認識で、これからも引き続き協力したいと思っている。

委員： 本委員会での経験を今後活かしていきたい。公共施設は市民の利用が前提であるので、魅力的な施設を作してほしい。施設の利用という観点では、市民アンケートを見る限り、岸和田城とだんじり会館という市の観光施設が、市民が好きな施設として上位に挙がっていないことが気になる。観光施設は主に市外の人を対象としているからだと思われるが、市民にもっと利用してもらえることが増えれば、そこから魅力ある施設づくりのヒントになるのではないかと。また、パブリックコメントでは図書館に対する意見が多かったのが印象的であったが、市民に対して情報が正確に届いていないところが感じられるので、市民に対して丁寧

に説明していくことで、市民の正しい理解を得られるのではないかと思う。

委員：自治体の都市計画において立地適正化を図る手助けを仕事としているが、立地適正化では、駅やバス停などを中心とした交通利便性の高いエリアに機能を集中させるという考え方が前提にある。個々の事例を見ると、駅周辺の状況によっては機能を集中させることで市民の利便性が高まる効果が見えてくる。機能配置を考えていく中で利用の仕方が具体的にイメージできれば、より良いアイデアが出てくると思われ、今後増えるであろう民間施設との複合化において、公共施設は集客施設として有用であると認識されることになる。施設の総量削減を進めるにあたっては、最終的には管財課のような課が管理を一元化し、総体的に捉えていくことが必要だと思う。

委員長：最後に、委員長として委員の皆さん、事務局、関係者の方々に御礼を申し上げたい。特に事務局においては、取りまとめ本当に大変であったと察するが、今後も着実に進めていってもらいたい。それでは、本日の議事を終了する。

事務局：以上をもって、平成27年度第5回公共施設マネジメント検討委員会を閉会する。

部長：（あいさつ）

本年度から公共施設マネジメント課は企画調整部から総務部に移ったが、総務部はまさに管財部門、財政部門を担う部署であるので、市民の満足度を目指した公共施設再編の仕掛けづくりが必要であり、委員の皆様には貴重なご意見をいただいた。これまで本委員会は2年にわたり計8回の審議を重ねてきたが、毎回丁寧な議論をいただき、本日の答申に至ったことを心から感謝申し上げたい。本日の答申及び本委員会でのこれまでのご意見を踏まえて、次年度からの取組みを着実に進めていきたいと思っており、引き続き委員の皆様にはご指導いただけましたならば幸いです。

以上

— 以下余白 —